

編 集 後 記

最近の理研のSTAP細胞をめぐる騒動や国内の医薬品の研究開発における論文の捏造問題は、海外からも注視され、日本の臨床研究の信頼失墜は大きく、早急に医療界に対する国民の信頼回復に取り組む必要があると思われます。

さて本号では、生涯教育講座として、島根大学医学部解剖学・神経形態学の安井幸彦先生に皮質辺縁系から口腔顔面運動核への下行路について概説していただいた。また同耳鼻咽喉科学の川内秀之先生には、気道の炎症病態におけるToll様受容体を介した自然免疫応答について詳細に解説いただいた。

臨床研究では、泉明夫先生は、開業医として日常診療の中で、過去5年間に5,000例以上の大腸ファイバー検査を実施され、それをまとめられた努力には敬意を表します。特に80歳以上の高齢者400例以上の検討では、合併症なく安全に短時間で検査を遂行されており、右側結腸癌の割合が多いので全大腸内視鏡検査が重要であると強調されています。また泉信夫先生は、肥満度調査の続編として、小児期肥満のチェックの重要性を指摘されています。

さらに福永昇平先生、生越英二先生、大畑修三先生にはそれぞれ貴重な症例報告をいただきました。いずれも明日からの実地臨床に役立つ発表でした。

今後とも多方面からどうか奮って原稿をお寄せ頂きますよう宜しくお願いいたします。

(T.T)

島根医学編集委員

葛尾信弘，貴谷 光，秦 公平，児玉和夫，森本紀彦，
浅野博雄，沖田旺治，齊藤洋司，佐藤比登美，井川幹夫，
中山健吾，徳島 武

島 根 医 学

平成26年3月31日発行

発行者 島 根 県 医 師 会
松江東奥谷町
編 集 編集者 葛尾信弘
発行所 松江市学園南2丁目3番11号
有限会社 松陽印刷所